



# ケース会議【作戦会議】のポイント

## 校内ケース会議 の強化に向けて

### ケース会議が作戦会議になっていますか？

困り感の共有だけになっていませんか？

#### 1. 必要に応じて開催する

##### □生徒指導主事等が声かけする

- ・児童生徒や教職員の困り感を見取り、関わりのある教職員に声をかけ、会議を開く。

#### 2. 支援を検討する

##### □会議のねらいを共有する

- ・児童生徒の困り感に寄り添い、安心して学校生活を送るための支援を検討する会議であることを共有する。

##### □課題を明確にする

- ・児童生徒が何に困っているのかを具体的に話し、解決したい課題を明らかにする。

##### □仮説を立てる

- ・児童生徒の行動の原因や背景を探り、改善のための仮説を立てる。

##### □短期目標と支援を決定する

- ・課題解決のための順序や手順を明らかにする。

##### □次回の日時を決定する

#### 3. 決定した支援を実施する

##### □支援を共有する

- ・決定した支援を学校全体で共有する。

##### □決定した支援は必ず実施する

- ・支援を実施し、その効果を具体的な姿で記録に残し、次回のケース会議の参考にする。

#### 4. 検証し、記録に残す

##### □実施した支援を検証する

- ・効果が現れない場合や支援が困難な場合は内容を再検討する。

##### □記録に残し、次年度へ引き継ぐ

- ・成功事例や失敗事例を記録し、支援の精度を高める。
- ・次の校種や学年へ支援を引き継ぐ。

校内ケース会議の強化に向け、再確認してみましょう！

